

駿河台大学メディア情報学部 発展研究履修の手引き 2017

1. はじめに

発展研究は4年次生のみが履修できる選択科目です。大学4年間の成果を研究論文、研究作品という形にまとめることが目的となります。

指導には原則としてゼミナーⅣの担当教員が当たります。発展研究はゼミナーⅣとは別の科目として2単位の取得を目指すものなので、ゼミナールの研究成果をそのまま発展研究としては認められません。

発展研究が単位として認められるためには、次の2つの条件を満たすことが必要です。

- 次ページ以降に示す提出物を提出して審査に合格すること。
- 発展研究発表会で発表を行うこと。

発展研究の提出日、提出時間、提出場所は指定されており、それ以外では受理されません。発展研究に関する日程は以下の通りです。

履修登録締切	2017年 4月3日（月）13:00 事前登録必要
発展研究題目届	2017年 9月23日（土）～ 9月29日（金） 指導教員に提出
発展研究提出日	2017年 11月27日（月）～ 11月28日（火） 17:00 迄に 教務課に提出 ※いかなる事情があっても遅れて提出することは一切認められない。
発展研究発表会	2017年 11月30日（木）（予定／詳細は掲示にて発表）

提出された発展研究は、主査（指導教員）と1名ないし2名の副査（メディア情報学部専任教員）が審査を行い、合議によって成績評価します。発展研究発表会で発表することは、単位認定の要件ですが、発表内容は審査の対象とはなりません。教員や学生に発展研究の成果を理解してもらうとともに、ゼミナールなどで学んだプレゼンテーションの技術を実践する良い機会ですので、十分に準備をして発表に臨んでください。

この手引は、発展研究の履修にあたって必要となることがらをまとめたものです。これが守られない場合には発展研究が受理されないので、十分注意してください。

2. 提出物

発展研究（研究論文）の場合、提出するものは①～⑤の5点です。発展研究（研究作品）の場合には、さらに⑥⑦を合わせた7点が必要です。⑥⑦の形態と形式を含め、発展研究（研究作品）制作を行う場合の詳細は「5. 発展研究（研究作品）に関する事項」に詳しく記述されています。

《論文、作品制作に共通の提出物》

- ① 発展研究の本体 3部
- ② 要旨、本文、図表を収めた電子記録媒体（FD、CD-R、DVD-R等）
 - ※ 発展研究本文に掲載した図表等をすべて収録し、発展研究本体と同内容の電子ファイルとすること。
- ③ ②のファイル一覧
- ④ 発展研究発表会用のレジュメ
- ⑤ 発展研究提出物チェックリスト

《作品制作のみに必要な提出物》

- ⑥ 作品の本体
- ⑦ ⑥の仕様ラベル

3. 発展研究の本体

3.1. 発展研究の体裁

- (1)用紙は A4 判、原則として横書きとし、色は白とします。フォントは原則として明朝体 10.5 ポイントとします。
- (2)提出物を作成するアプリケーションの種類は問いませんが、提出データは PDF 形式もしくは Microsoft Word 形式とします。このどちらかに変換できることを確認して作成アプリケーションを選んでください。
- (3)発展研究は下記のファイルに綴じてください。

ライオン フラットファイル A4 版 S 型（背幅 18mm）

品番：LION-A-518S-3P A4S（1袋3冊入・色：緑色）

- (4)ファイルの表紙には、次の事項を記載してください。ワープロ等で作成し、糊付けしてください（「表紙の例」を参照）。
 - ①「20〇〇年度 駿河台大学メディア情報学部 発展研究」
 - ②発展研究の標題
 - ③提出年月日
 - ④学部・学科
 - ⑤学籍番号
 - ⑥氏名
 - ⑦指導教員名

(5) ファイルの背表紙にも、次の事項を横書きで記載してください。ワープロ等で作成し、糊付けしてください（「背表紙の例」を参照）。

- ① 発展研究の標題
- ② 提出年月
- ③ 氏名

(6) ファイルは複数になってもかまいませんが、その場合には、表紙・背表紙に通し番号を明示してください（たとえば、発展研究の標題の後に、(1)、(2)などと付けてください）。

(7) ファイルは 3部ずつ 提出してください。

(表紙の例)

<table border="1" style="width: 80%; margin: 0 auto;"><tr><td style="text-align: center;">20〇〇年度 駿河台大学 メディア情報学部 発展研究</td></tr></table>	20〇〇年度 駿河台大学 メディア情報学部 発展研究
20〇〇年度 駿河台大学 メディア情報学部 発展研究	
<table border="1" style="width: 80%; margin: 0 auto;"><tr><td style="text-align: center;">情報メディアの歴史的変遷 ー近世ヨーロッパを中心にー</td></tr></table>	情報メディアの歴史的変遷 ー近世ヨーロッパを中心にー
情報メディアの歴史的変遷 ー近世ヨーロッパを中心にー	
<table border="1" style="width: 60%; margin: 0 auto;"><tr><td style="text-align: center;">20〇〇年〇月〇日提出</td></tr></table>	20〇〇年〇月〇日提出
20〇〇年〇月〇日提出	
<table border="1" style="width: 80%; margin: 0 auto;"><tr><td style="text-align: center;">メディア情報学部 〇〇情報学科 30〇〇999 駿河台 あやめ 指導教員：〇〇〇〇</td></tr></table>	メディア情報学部 〇〇情報学科 30〇〇999 駿河台 あやめ 指導教員：〇〇〇〇
メディア情報学部 〇〇情報学科 30〇〇999 駿河台 あやめ 指導教員：〇〇〇〇	

(背表紙の例)

情報メディアの歴史的変遷ー近世ヨーロッパを中心にー	20〇〇年〇月提出 駿河台あやめ
---------------------------	------------------

3.2. 発展研究の構成要素

以下に、発展研究の主要な構成要素を掲げます。このうち「必須」と書かれたものは、発展研究には必ず含め、「任意」と書かれたものは必要があれば付けてください。

(1) **[必須]** 標題紙（「標題紙の例」を参照）

ファイルの表紙と同じ内容を記載します。すなわち、「20〇〇年度 駿河台大学メディア情報学部 発展研究」「発展研究の標題」「提出年月日」「学部・学科」「学籍番号」「氏名」「指導教員名」を記載してください。

(2) **[必須]** 要旨（「要旨の例」を参照）

発展研究の内容の要約を付けてください。余白を上下左右それぞれ 3cm とし、縦は 43 行以内、横は 40 字（全角文字）以内で、必ず、1 ページの範囲内に収まるようにしてください。なお、ページの上部に、「発展研究の標題」「学部・学科」「氏名」を記載してください。また、ページの下部に、担当教員名を「(指導教員:〇〇〇〇)」のように記載してください。この要旨については、別ファイルに保存し、電子ファイルでも提出してください（「4. 要旨、本文、図表を収めたディスクとファイル一覧」を参照のこと）。

(3) **[必須]** 目次（「目次の例」を参照）

(4) **[任意]** 図目次、表目次

(5) **[必須]** 本文

本文の構成については、次のようなものを含めることを目安とし、適宜、章・節を設定してください。

- ①研究の背景・動機・目的
- ②従来の研究（先行研究）
- ③研究方法
- ④結果および結論、考察

本文の場合、余白は、上下 3.5cm、左右 3.0cm とし、1 ページの行数は 35 行程度、1 行の字数は 35 字（全角文字）程度としてください。また、本文には必ず全ページにページ番号を付けてください。

章・節の見出しの例は、以下のとおりですので、参考にしてください。

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. はじめに | 1. はじめに |
| 2. 情報メディアに関する先行研究 | 2. 情報メディアに関する先行研究 |
| 2.1 〇〇〇〇 | A. 〇〇〇〇 |
| 2.2 〇〇〇〇 | B. 〇〇〇〇 |
| 2.2.1 〇〇〇〇 | (1) 〇〇〇〇 |
| 2.2.2 〇〇〇〇 | (2) 〇〇〇〇 |
| 2.2.2.1 〇〇〇〇 | (a) 〇〇〇〇 |
| | |

(6) [任意] 謝辞

(7) [必須] 注 (引用文献を含む)

注の書き方は、「3.3. 注 (引用文献を含む) の書き方」に従ってください。

(8) [任意] 付録

(標題紙の例)

<p>20〇〇年度 駿河台大学メディア情報学部 発展研究</p> <p>情報メディアの歴史的変遷 —近世ヨーロッパを中心に—</p> <p>20〇〇年〇月〇日</p> <p>メディア情報学部 〇〇情報学科 30〇〇999 駿河台 あやめ 指導教員：〇〇〇〇</p>
--

(要旨の例)

<p>要 旨</p> <p>情報メディアの歴史的変遷 —近世ヨーロッパを中心に—</p> <p>メディア情報学部 〇〇情報学科 駿河台あやめ</p> <p>本研究では、近世のヨーロッパにおける情報メディアの発展及び、それが社会に対して与えた影響を調査・分析することを目的とする。具体的には、イギリス・フランス……………</p> <p>……………</p> <p>を議論する必要がある。</p> <p>(指導教員：〇〇〇〇)</p>
--

注：要旨の余白、行数、文字数については、上の(2)の規定に従ってください。

(目次の例)

目次	
1. はじめに.	1
2. 情報メディアとその種類	
2.1 情報メディアとは.	3
2.2 情報メディアの種類.	10
2.3 情報メディアの多様性.	15
3. 情報メディアに関する従来の研究	
.....	

注意事項：図表について

- (a) 図表に関しては、なるべく本文中の適当な個所に挿入してください。ただし、複数ページにわたるような大きな図表については、付録（本文の最後にまとめる形式）としてもかまいません。
- (b) 図表が B4 判、あるいは A3 判になった場合は、適宜、折りたたんでください。
- (c) 図表には、適切な見出しを付けて、通し番号を付けてください（たとえば、図 1、図 2、... など）。図表の番号は、章ごとに付けてもかまいません（たとえば図 2.1、図 3.2 など）。

(図表の例)

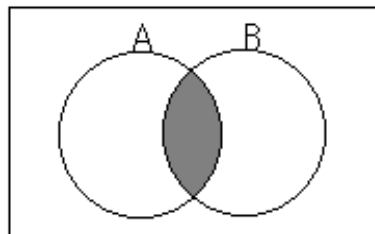


図 2 検索語 A と B との論理積

表 3.1 国別での出版点数（〇〇分野、1997 年）

	出版点数	%
日本	1,680	8.3
米国	13,520	66.5
...	...	
その他	2,342	11.5
合計	20,345	100.0

出典：『〇〇文化統計年鑑』 p.115 より作成

3.3. 注（引用文献を含む）の書き方

注では、本論に付随する考え方、経緯、関連情報などについて注釈したり、使用したデータ・情報・知識の典拠（引用文献など）を記述したりします。

特に典拠を明示することは、論文の責任を明確にする観点、および他者がその発展研究を吟味し使用する観点から極めて重要であり、重い責任をとまいません。先行研究や他者の意見あるいは他者が作成したデータ・情報を使用する場合には、逐一、本文の該当箇所に注番号を付け、本文の次に、その番号順に注を記述してください。なお、その具体的な例については①と②を参照してください。

また、他の方式を用いる場合を含め、詳しくは指導教員の指示に従ってください。

①引用と注番号の付け方の例

...この点に関して、B.C.Salton は次のように述べている。

“情報を客観的にとらえるのには限界がある。主観的な観点からの情報の再解釈がいまこそ求められているのである。これこそ、1980年代におけるひとつのパラダイム転換と呼ぶことができよう。”³⁾

この見解は多くの研究者によって支持された⁴⁾。その中でも、安澤⁵⁾は現象学的な観点から Salton の主張を議論し、いくつかの補足を加えている⁶⁾。

②注（引用文献を含む）の記述の例（①に対応）

.....

3) Salton, B. C. Subjective information paradigm: a critical review. *Journal of Informatics*. 1990, vol.12, no.3, p.225-298.

4) 戸田光昭. 情報理論の再構築—哲学的な観点から. ○○書房, 1992, 123p.

5) 安澤秀一. 情報と現象学. ○○学会論文誌. vol.3, no.6, 1994, p.32-58.

6) 特に、他者理解に関する議論は有益であり、たいへん興味深い。

7)

.....

また、同じ文献を繰り返し引用する場合は、次のように記述することができる。

- 8) 注3の文献, 引用は p.83.
- 9) 前掲3), p.83.

* 典拠の記述の例を以下に示しますので、参考にしてください。

A. 図書の場合

(1) 図書 1 冊を参照する場合

著者名. 書名. 版表示, 出版者, 出版年, 総ページ数. (シリーズ名, 巻数, 号数)

- ・ 竹内啓, 藤野和建. 2 項分布とポアソン分布. 東京大学出版会, 1981. 262p. (UP 応用数学選書, 2)
- ・ 情報科学技術協会編. 新サーチャー入門: 基礎編. 第 2 版, 日外アソシエーツ, 1992, 295p.
- ・ Shao, Jun; Tu, Dongsheng. The Jackknife and Bootstrap. Springer, 1995, 515p.

(2) 図書の 1 部を参照する場合

著者名. 書名. 版表示. 出版者, 出版年, 参照ページ. (シリーズ名, 巻数, 号数)

- ・ マクルーハン, M. メディア論: 人間の拡張の諸相. 栗原裕, 河本仲聖訳. みすず書房, 1987, p.12-24.

(3) 図書の 1 つの章を参照する場合 (1: 通常の場合)

著者名. “章のタイトル”. 書名. 版表示, 出版者, 出版年, 該当ページ. (シリーズ名, 巻数, 号数)

- ・ 浅井 晃. “7 章 標本設計の基本問題”. 調査の技術. 日科技連, 1987, p.140-162.
- ・ Nielsen, Jakob. “4. Application of Hypertext”. Multimedia and Hypertext: the Internet and Beyond. Academic Press, 1995, p.67-129.

(4) 図書の 1 つの章を参照する場合 (2: 章ごとに著者が異なる場合)

著者名. “章のタイトル”. 書名. 版表示, 編者. 出版者, 出版年, 該当ページ. (シリーズ名, 巻数, 号数)

- ・ ロトカ, アルフレッド J. 倉田敬子訳. “8 科学の生産性を示す度数分布”. 情報学基本論文集 I. 上田修一編. 勁草書房, 1989. p.143-150.
- ・ Harman, Donna. “14. Ranking algorithms”. Information Retrieval: Data Structures & Algorithms. Frake, William B.; Baeza-Yates, Ricardo. ed. Englewood Cliffs, PTR Prentice Hall, 1992, p.363-392.

B. 雑誌論文の場合

著者名. 論文タイトル. 雑誌名. 出版年, 巻数, 号数, 参照ページ.

- ・ 阪口哲男ほか. インターネット上での児童図書選択支援システム. 情報知識学会誌. 1996, Vol.6, No.1, p.11-20.
- ・ Fischhoff, B., et al. Subjective expected utility: a model of decision-making. Journal of the American Society for Information Science. 1981, Vol.32, No.5, p.391-399.

C. 新聞記事の場合

（署名があれば署名者）．記事タイトル．新聞名．発行年月日（朝刊・夕刊の区別），該当ページ．

- ・小島朋之．中国「反日」に統治の危機．日本経済新聞．2005.5.8(朝刊)，p.22．
- ・時代劇の鉦脈．朝日新聞．2004.10.29(朝刊)，p.7．

但し、次のように”記事タイトル”方式の表記も可です。詳細については指導教員と相談してください。

- ・小島朋之．"中国「反日」に統治の危機"．日本経済新聞．2005.5.8(朝刊)，p.22．

D. 論文集に収録された論文の場合

上記の「A-(4)図書の1つの章を参照する場合（2:章ごとに著者が異なる場合）」に準ずる。また、継続して発行される論文集の場合、上記の「B.雑誌論文の場合」に従って記述することもできる。

E. 学会や研究大会の資料の場合

著者名．“発表タイトルまたは論文名”．会議資料名．（編者名）．会議開催地，開催期間．主催機関，出版者，出版年，参照ページ．

- ・美添泰人；荒木万寿夫．“消費関数の安定性について”．第64回日本統計学会講演報告集．千葉，1996-09-01/03．日本統計学会，1996，p.319-320．
- ・Deegan, Marilyn．“Computer-based learning in British higher education: a review of some projects and issues”．47th FID Conference and Congress. Omiya, Japan, 1994-10-15/20. International Federation for Information and Documentation, 1994, p.594-598.

F. 学位論文等の場合

著者名．論文タイトル．機関所在地，大学名，学位授与年，総ページ数．学位論文の種類．

- ・文化太郎．情報メディアの歴史的変遷：近世ヨーロッパを中心に．埼玉，駿河台大学メディア情報学部，100p．卒業論文．

G. 私信やインタビューの場合

著者名．タイトル．年月．私信／インタビューなどの種類．

- ・安澤秀一．1997年7月．インタビューによる．

H. 記録／史料の場合

資料名．所蔵者名．資料群名，資料番号（編集者名．資料目録名．出版者名，出版年）

- ・寅年宗門人別改帳．飯能市郷土館所蔵．武蔵国高麗郡飯能村名主小沢家文書，資料番号 A-32（飯能市教育委員会．武蔵国高麗郡飯能村名主小沢家文書目録．1980）

*ただし、図書として刊行された資料集などから引用している場合には、上の「A.図書の場合」に準ずる。

I. インターネット上の情報の場合

数年で情報自体が存在しなくなることがしばしばあるので、典拠として使うには十分な注意が必要である。

(1) WWW 上のホームページ

著者名. “ウェブページの題名”. ウェブサイトの名称. 更新日付. 入手先, (入手日付).

- ・ 学術情報センター. “文部省学術情報センター沿革”. 学術情報センター. 1996-11-1. <http://www.nacsis.ac.jp/brief/history-j.html>, (参照 1997-3-21).

(2) WWW 上の雑誌論文等：アクセス先とアクセスした日付を付記する。

- ・ 藤田岳久. 海外利用者のための日本語 OPAC. デジタル図書館. 1996, No.6, p.11-15. <http://www.dl.ulis.ac.jp/Dljournal/No6/take.html>, (参照 2005-3-1).

3. 4. 発展研究作成のための参考文献

- 木下是雄. 理科系の作文技術. 東京, 中央公論社, 1981. 244p. (中公新書 624)
- 木下是雄. レポートの組み立て方. 東京, 筑摩書房, 1990. 234p. (ちくまライブラリー 36)
- 戸田山和久. 論文の教室：レポートから卒論まで. 東京, NHKブックス, 2002. 297p.
- 中村幸雄. 論文と抄録の書き方. 2 版. 東京, 情報科学技術協会. 1990. 127p. (INFOSTA シリーズ)

その他、文庫あるいは新書として手軽なものとしては、

- 澤田昭夫. 論文の書き方. 東京, 講談社, 1997. 266p. (講談社学術文庫 153)
- 杉原四郎ほか. 研究レポートのすすめ. 東京, 有斐閣, 1979. 210p. (有斐閣新書 C55)
- 樺島忠夫. 文章構成法. 東京, 講談社, 1980. 193p. (講談社現代新書 587)
- 末武国弘. 科学論文をどう書くか. 東京, 講談社, 1981. 250p. (講談社ブルーバックス 454)
- 浅田彰ほか. 科学的方法とは何か. 東京, 中央公論社, 1986. 213p. (中公新書)
- 上田尚一. 統計グラフの賢い見方・作り方. 東京, 講談社, 1988. 214p. (講談社ブルーバックス)

などがあります。

4. 要旨、本文、図表を収めたディスクとファイル一覧

(1)電子ファイル

要旨、卒論の本文と図表を電子記録媒体（FD、CD-R、DVD-R 等：以下、ディスクと総称）に収めて提出してください。FD、CD-R、DVD-R 等、1 枚に収められない場合は、複数枚に分けて提出してもかまいません。

(2)要旨

本文の要旨と同じ内容のもの(3.2.(2)を参照)を PDF 形式もしくは Microsoft Word 形式でディスクに収めてください。ファイル名は「要旨_自分の氏名.拡張子」（例：「要旨_駿河台あやめ.pdf」）にしてください。

(3)それ以外のファイル

提出物を作成するアプリケーションは問いませんが、提出データは PDF 形式もしくは Microsoft Word 形式でディスクに収録してください。また、なるべく、図表もその単一データ内に組み入れてください。それが不可能な場合は、図表等を別ファイルとしてもかまいませんが、作成に使用したアプリケーション等をファイル一覧で明示してください。

(4)ラベル

ディスク本体もしくはケースにラベルを貼り、「20〇〇年度発展研究」「発展研究の標題」「学籍番号」「氏名」「ディスクの通し番号」（例えば、3 枚あるうちの 1 枚目ならば「1 / 3」と記入）を記載してください。CD-R のようにディスクとケースが別になるものについては、ケースにラベルを貼ると同時にディスクにも油性ペンか盤面プリントで同じ内容を記入してください。

(5)ファイル一覧（「ファイル一覧の例」を参照）

ディスクに収めたファイルの内容をファイル一覧にまとめて提出してください。A4 の用紙を用い、「20〇〇年度発展研究ファイル一覧」と表題を付け、学籍番号、氏名を明記し、各ファイルの「ファイル名」「収められたディスク番号」「ファイル内容」「使用アプリケーション」「備考」を記載してください。

(ファイル一覧の例 1)

20〇〇年度発展研究 ファイル一覧 (30〇〇999 駿河台あやめ)				
ファイル名	ディスクNo.	ファイル内容	アプリケーション	備考
要旨.doc	1	要旨	MS-Word	
本文.doc	1	発展研究本文	MS-Word	図と表を含む

(ファイル一覧の例 2)

20〇〇年度発展研究 ファイル一覧 (30〇〇999 駿河台あやめ)				
ファイル名	ディスクNo.	ファイル内容	アプリケーション	備考
要旨.doc	1	要旨	MS-Word	
本文.doc	1	発展研究本文	MS-Word	図と表は含まない
表.xls	1	表 1～表 10	MS-Excel	
図.xls	1	図 1～図 4、図 6	MS-Excel	図 5 は含まない
図 5.xls	2	図 5	MS-Excel	
データ.mdb	3	資料	MS-Access	データベース本体

5. 発展研究（研究作品）に関する事項

主に映像音響分野、デジタルデザイン分野の発展研究（研究作品）について説明します。

5.1. 要件

- (1) 作品と作品についての解説論文をあわせたものが発展研究です。作品だけでは発展研究として認定されません。したがって、作品制作を行う場合は、作品と解説論文の両方を提出することが必要です。
- (2) この手引きの冒頭にも記載されているように、発展研究にはゼミナールと別の単位が与えられます。ゼミナールでの制作物や作品をそのまま発展研究とすることはできません。ただし、例えば発展研究の主眼が新しい技術や手法の開発、研究にある場合、その技術、手法の実証事例としてゼミナールで制作した作品を提出することは可能です。
- (3) 作品自体の形式、体裁は問いませんが、発表、提出する際には特殊な再生装置、OS、アプリケーション（プラグイン）等に依存しない「標準的な」再生環境及び媒体であることが推奨されます。ただし、作品表現や研究内容によって特殊な再生環境が必要な場合は、指導教員の許可を得て仕様を含めることが可能です。その場合は 5.2.の体裁に合わせた「サブセット」を作成して提出することが必要ですので注意してください。
- (4) 作品の提出の詳細に関しては必ず指導教員とよく相談をしてください。

5.2. 発展研究（研究作品）の体裁

- (1) 解説論文の形式については発展研究（研究論文）の形式に準じます。この手引きの 3.1 から 3.5 を参照してください。
- (2) 映像音響作品の場合、提出は以下の規格を満たすものとします。
 - ・ NTSC 方式の DVD-Video 規格で焼かれた DVD-R
(Blu-ray 等の HD 作品を提出する場合も DVD 解像度のサブセットを添えること)
 - ・ トールサイズ（アマレーサイズ：190×135mm）のケースに収納
 - ・ DVD-R には油性ペンもしくは盤面プリントで、ケースにはラベルで以下を記載
 - ① 「20〇〇年度 駿河台大学メディア情報学部 発展研究」
 - ② 発展研究の標題
 - ③ 再生分数
 - ④ 提出年月日
 - ⑤ 学部・学科
 - ⑥ 学籍番号
 - ⑦ 氏名
 - ⑧ 指導教員名

(3)デジタルデザイン作品の場合、提出は以下の規格を満たすものとします。

- ・ CD-R もしくは DVD-R
- ・ 12cm CD 規格のケース（142×124mm）に収納
- ・ CD/DVD-R には油性ペンもしくは盤面プリントで、ケースにはラベルで以下を記載
 - ①「20〇〇年度 駿河台大学メディア情報学部 発展研究」
 - ②発展研究の標題
 - ③再生に必要な OS、アプリケーション、プラグイン等の情報
 - ④提出年月日
 - ⑤学部・学科
 - ⑥学籍番号
 - ⑦氏名
 - ⑧指導教員名

5.3. 共同作品の扱い

映像作品や規模の大きなコンテンツ制作を複数人で行う「共同作品」の扱いは次のとおりです。

- (1)他のメンバーをもって代替できない主要な役務を担っている場合のみ、発展研究として提出できます。その関与の度合いが発展研究に値するかどうかは指導教官が認定しますので、共同で発展研究に取り組む場合は、全主要メンバーと指導教官による十分な打ち合わせと確認を行ってから、履修登録をしてください。
- (2)作品を共同で提出した場合でも、解説論文は各自の役務によって内容が異なるため、それぞれが独自に作成する必要があります。類似した解説論文では(1)に規定された「代替できない主要な役務」とは認められないので注意が必要です。
- (3)共同作品の場合でも、発展研究（作品及び解説論文）の提出は個人単位で行ってください。

6. 発展研究発表会と発表会用レジュメ

- (1)提出されたすべての発展研究が発表の対象となります。
- (2)発表は口頭発表の形式で行います。発表者1人当たりの発表時間は15分です。これには準備や質疑応答の時間も含まれていますので、発表自体は12分以内で終わるようにしてください。映像音響作品、デジタルデザイン作品等の発表の場合、作品再生時間も上記に含まれます。必要に応じて発表会用のダイジェスト版を用意してください。
- (3)発表時には、事前に提出した発展研究発表会用のレジュメを発表会の出席者全員に配布します。また、それ以外の配付資料、OHC、ビデオ、コンピュータ等を使用することも可能です。これらを用いる場合には事前に指導教員と相談してください。
- (4)発展研究と一緒に提出する発展研究発表会用のレジュメは、A4用紙1枚とします。これには、「発展研究のタイトル」「氏名」「学籍番号」「指導教員名」「発展研究の概要」を記載してください。文字のポイントや段組については指定しませんが、見やすいよう工夫してください。

(発展研究発表会用のレジュメの例)

タイトル
駿河台あやめ(30〇〇000)
指導教員：〇〇 〇〇

(1) 目的
.....

(2) 方法
.....

(3) 結果
.....

(4) 考察
.....

表1

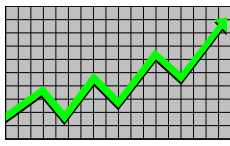


図1

7. 発展研究提出物チェックリスト

「発展研究提出物チェックリスト」は、この手引きの2.で規定している提出物が適正に整っていることを確認する書類です。提出前に指導教員と確認し、署名・捺印の上、提出日に発展研究の本体などとともに提出してください。書類は、指導教員から受け取ってください。

以 上